

刑事政策

科目ナンバリング CRL-304
選択 2単位

堀田 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

本講義では犯罪者処遇論を取り上げる。特に矯正・保護に焦点を当て、施設内処遇及び社会内処遇の実態と課題について検討する。授業全体を通じて、立直りとは何か、社会復帰とは何かを考える。

2. 授業の到達目標

- ①矯正・保護に関する専門的知識をもとに、その現状と課題について具体的に説明することができる。
- ②矯正・保護の実態を把握した上で、立直りとは何か、社会復帰とは何かについて意見を述べることができる。

3. 成績評価の方法および基準

基本的には試験によって評価するが、感想文やレポート等を課すこともある。評価配分の目安は、試験90%、授業への貢献度10%である。授業への貢献度は、課題の提出状況や授業態度等によって総合的に判断する。

4. 教科書・参考文献

教科書

守山正・安部哲夫〔編著〕『ビギナーズ刑事政策(第3版)』(2017) 成文堂

参考文献

法務省法務総合研究所〔編〕『令和3年版 犯罪白書』 法務省HPから閲覧可

太田達也『仮釈放の理論—矯正・保護の連携と再犯防止』(2017) 慶應義塾大学出版会

藤本哲也・生島浩・辰野文理〔編著〕『よくわかる更生保護』(2016) ミネルヴァ書房

5. 準備学修の内容

毎回の授業で扱うテーマについて、自分で考え、まとめる力を養いましょう。勉強すればするほど疑問がわいてきます。まずは自分で調べることが大切です。図書館を大いに活用し、テキストや参考書、さらには学術論文等にもあたってみてください。法務省や警察庁等の公共機関のHPも参考になります。刑事政策はまさに現在進行中のテーマを扱いますので、日頃から新聞やニュース等に触れておきましょう。自分で調べても答えが出ない問題については、友人と議論したり、教員に質問したりすると良いでしょう。

6. その他履修上の注意事項

- ①春期の「犯罪学」と「少年法」を履修しておくことが望ましいです。また、秋期は「被害者学」を同時に履修することをお勧めします。
- ②授業をよく聞いて、その都度レジュメに書き込むか、ノートを取るようにしてください。自分で書いて、理解することが大切です。授業の内容が聞き取れなかった場合は、あやふやのままにせず、すぐに確認してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション—刑事政策とは何か—
- 【第2回】 施設内処遇—受刑者処遇の基本原則—
- 【第3回】 矯正処遇
- 【第4回】 制限の緩和・優遇措置／開放的処遇
- 【第5回】 就労支援と再犯防止
- 【第6回】 ゲストスピーカーによる講演(予定)
- 【第7回】 受刑者の法的地位—受刑者の権利とその制限—
- 【第8回】 行刑運営の透明性の確保／仮釈放
- 【第9回】 前半のまとめ
- 【第10回】 更生保護とは何か—保護観察官と保護司—
- 【第11回】 更生保護を支える人々
- 【第12回】 更生保護に関わる施設
- 【第13回】 司法福祉
- 【第14回】 後半のまとめ
- 【第15回】 秋期の復習と試験(予定)